

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年6月号 通巻6号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

そろそろ子どもたちがやって来る

6月後半から現れます。でもあわてないで！



どちらの画像も撮影は2006年7月で、同じ個体。7月下旬なので成獣に近い大きさになっていますが、毛が短いことがよくわかります。見た目はまるで子犬です。6月ごろの子どもは、もうちょっとコロコロした感じですが、体の模様はタヌキそのものです。

タヌキの出産、子育てを観察するのは難しいものです。特に東京都23区ではタヌキは民家の床下や立入禁止の場所を巣として利用しているらしく、観察はますます難しくなります。それでもさまざまな目撃情報や過去のタヌキの研究から、23区内での出産はゴールデンウィーク前後だろうことは推測できています。この新聞が出る6月はちょうど育児の真っ最中なのです。

タヌキは子だくさん

タヌキの赤ちゃんは生後しばらくは巣から出てきません。23区内では6月後半になると子どもたちが現れたという目撃情報が届き始めます。巣のすぐそばならばもう少し早い時期から子どもたちを見ることができるようです。

タヌキの子どもたちはかわいいのですが、目撃者を驚かせてしまうことがあります。それは、ぞろぞろとたくさん現れるからです。タヌキは

普通、4～8頭を出産します。これは東京タヌキでも同じです。つまり、子ども8頭+お父さんお母さん2頭で合計10頭も現れることがあるのです。いきなり団体で現れるので、「異常繁殖か!？」と思われることがあるようですが、これはまったく正常なことなのです。あわてて役所や警察に連絡する必要などまったくないので。

では、どうすればいいのでしょうか？ 答えは「何もしない」です。捕まえる必要も追い払う必要もありません。そもそも無許可で捕まえたら鳥獣保護法違反です。逆に食べ物を与えるなどの保護も必要ありません。何もせず、そっと見守るのがお互いにとって一番いいことです。

花壇を荒らされるなどの被害が発生することもあります。できれば追い払うのは少し待っていただけるとありがたいです。というのは、タヌキの子どもたちは成長するにつれて人間の近くには現れなくなるからです。そして秋が深まるころには親

元を離れて新天地へ旅立っていきま(居残り組も少しいます)。

夏はタヌキ観察のチャンス

タヌキは子育てに限らず観察が難しいものですが、子どもたちが現れる夏だけは例外的に観察しやすくなります。子どもたちは行動範囲が狭く、人間に無警戒だからです。つまり、これはタヌキ観察の絶好のチャンスなのです。

もしタヌキの子どもたちが現れたなら、ぜひその様子を観察してみてください。そして、東京タヌキ探検隊！にもご一方をお願いします。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>